

幼児の音楽表現活動と保育実習に関する一考察

大森 由美子 (幼児音楽)

はじめに

筆者はこれまでに、6月と11月の保育実習に関する学生たちへのアンケート調査を通して園で実際に歌われている曲目を知り、それらの分析結果を学生に対する指導にいかしていくため検討を行ってきた。

そこでは、昔ながらの童謡、唱歌が世代を超えて歌いつがれている一方で、テレビの幼児向け番組などから、日々生まれている新しい歌も数多く歌われていた。

学生は古くから愛唱されている子どもの歌と共に、それらの新しい歌も学習していく必要があることがわかった。

今回、新たに1月に保育実習を行なった学生たちへのアンケート調査を通して、幼稚園で歌われている曲目を知り、それらの分析から得た結果を学生に対する指導にいかしていくとともに、子どもたちの音楽表現活動についても検討を加えるものである。

方法

本学の児童教育学科の学生を対象者として、幼稚園で歌われている曲に関するアンケート調査を行なった。

対象者の属性、実習期間は以下の通りである。

1. 対象：本学児童教育学科幼児教育専攻
1年生：平成22年度生 79名
平成23年度生 79名
2. 実習期間：平成23年1月17日～1月22日
平成24年1月23日～1月28日
3. 実習所：平成22年度 幼稚園 54ヶ所
平成23年度 幼稚園 57ヶ所

4. 調査日時：平成23年1月27日
平成24年2月9日

本学の幼児教育専攻1年生で今回の実習を行なった学生は合計158名あり、終了後、アンケートに回答した学生はそのうち145名である。

実習所は全111ヶ所で、内訳は岐阜県102、愛知県6、三重県1、長野県1、静岡県1となっている。

また、同一の園で実習を行なった学生が各2～5名ある場合もあるため、同様な回答が複数含まれている場合もある。

アンケートは実習先で実際に用いられていた歌の曲名を実習終了後に記入させたものである(表1)。

表1 アンケート用紙

学籍番号 _____ 組 _____ 氏名 _____ 実習所名 _____ 県名 _____ 市名 _____
みなさん実習お疲れさまでした。一生懸命頑張ってくれたことと思います。 幼児音楽(声楽)の授業の参考にしたいと思いますので、次のアンケートにご協力をお願いします
① 実習ではどんな歌を歌ったか書いてください。その中で、子どもの好きな曲には○を付けて下さい。 また、もしあなたの良く知らない曲があれば△を付けて下さい。 (曲名がよくわからないときは歌いだしの言葉を書いて下さい)
② どんな遊び歌をしましたか?教えてください。
③ 子どもたちがうたったり遊び歌をして、何かよかったこと楽しかったことはありましたか?
④ その反対に、何か困ったと感じたことはありましたか?
⑤ その他、実習を通して感じたことがあれば自由に書いてください。
ご協力ありがとうございました。 (もしスペースが足りない人は裏に書いていただいても結構です)

表2 主な曲名と件数

曲の種類	曲名	件数	
園生活のうた	おかえりのうた	61	
	朝のうた	57	
	おべんとう	32	
	園のうた	12	
	さよならのうた	12	
	お誕生日のうた	9	
行事のうた	豆まき	32	
	うれしいひなまつり	4	
季節のうた	雪	35	
	コンコンクシャンのうた	16	
	雪の小ぼうず	12	
	雪のペンキやさん	10	
	たぎび	7	
いろいろなうた	カレンダーマーチ	10	
	さんぽ	8	
	おもちゃのチャチャチャ	7	
	すうじのうた	7	
	ともだちさんか	6	
	にんげんっていいな	6	
	ののさま (仏歌)	6	
	ふしぎなポケット	6	
	てのひらをたいように	5	
	マルマルモリモリ	5	
	ミナモ体操	5	
	勇気 100%	5	
あそびうた	とんとんとんとんひげじいさん (他、類似曲)	16	
	はじまるよはじまるよ	12	
	1びきの野ねずみ	9	
	おにのパンツ	9	
	ピカチュウ	7	
	かもつれっしゃ	5	
	3びきの子ぶた	5	
	ディズニー	5	
	グーチョコキパーでなにつくろう	5	
	あおむしてたよ	4	
その他	1～3件の曲	173曲	260
合計	208曲		712

集計は、曲の内容から「園生活のうた」、「行事のうた」、「季節のうた」、「いろいろなうた」、「あそびうた」、「その他」に分類して行なった(表2)。

結果および考察

園生活のうた

ここでは、「朝のうた」に始まり、「おかえりのうた」、「さよならのうた」に至るまで、実にさまざまな歌が園生活のそれぞれのシーンにあわせて歌われている。

「おべんとう」の歌は「おべんと、おべんと」の歌詞を「給食、給食」と言いかえて歌われているようだ。園によっては食事の前に「おててをあらいましょう」を歌い、食後に「はみがきのうた」を歌うところもある。

誕生会には「お誕生日のうた」が歌われ、また出欠取りに際しては「どこでしょう」の歌が、姿勢を正しくする時は「おむねをはりましょ」が歌われていた。

さらに、オリジナルの園歌をもつ園があり、仏教関係の園では「ほとけさま」、「ののさま」、「おまいりのうた」なども歌われ、キリスト教関係の園では「讃美歌」が歌われている。

このように幼稚園では、歌を通して、さまざまなしつけを行なっている様子がかがえ、これらのことは保育所のアンケート調査でも同じような点が見られた。

行事のうた

今回の実習は1月の下旬に行なわれたため、さすがにお正月の歌はあまり歌われなくなり、かわって2月の節分を前に「豆まき」の歌がよく歌われている(図1)。この歌は昭和6年に発行された「えほん唱歌」の中に「マメマキ」として記載されており、現在に至るまで節分の行事に際しては欠かすことのできない定番の曲となっている。

また、ひなまつりの歌をはじめ「思い出のアルバム」や「ありがとう さようなら」、「はじめの一步」などの卒園に関する曲も、この時期から少しずつ歌われるようである。

季節のうた

ここでは季節がら雪にちなんだ曲が数多く歌われている。中でも最も多いのは「雪」で、すでに明治44年には尋常小学唱歌として記載されており、今日まで世代を問わず親しまれている

豆 ま き

♩=100

1. 2. お に は そ と ふ く は う ち

ば ら っ ば ら っ ば ら っ ば ら っ ま め の お と

1. お に は こ っ そ り に げ て い く
2. は や く お は い り ふ く の か み

えほん唱歌

図1 「豆まき」

「うたって、つくって、あそぼう」音楽之友社

る曲である。

また「コンコンクシャンのうた」は、子どもらしい歌詞（香山美子作詞：1961年）とメロディが人気の、季節にピッタリの曲（図2）で、「雪の小ぼうず」はデンマークの民謡に日本語の歌詞をつけた曲である。

いろいろなうた

カレンダーマーチは年の初めに歌うのにふさわしく、1月から12月までの季節や行事を明るく歌った曲であり、「すうじのうた」は、まず数字の形を幼児にも楽しく親しむことが出来るよう工夫された歌である。

「ともだちさんか」はアメリカ民謡であるが現在では広く親しまれているおなじみの曲である。

「マルマル モリモリ」はテレビドラマ「マルモのおきて」の中で、可愛い男女の子役俳優たちが歌い踊って大ヒットした曲で、子どもたちにも大人気となった。

「ミナモ体操」は平成24年の岐阜国体のテーマソングでもあり、その軽快な曲とダンスは保育の現場でも大いに親しまれた。

あそびうた

「とんとんとんとんひげじいさん」をはじめとするこのシリーズの歌は、ドラえもん、アンパンマンなど、さまざまなバリエーションで子どもたちに人気のあそびうたである。

「はじまるよ はじまるよ」も同じく、楽しく手あそびをしながら最後は「手はおひざ」と、子どもたちをよい姿勢へと導く歌でもある。

一方「おにのパンツ」の曲はNHK教育テレビから広まったコミックソングで、「鬼のパンツは いいパンツ つよいぞ つよいぞ」の歌いだして始まる。丈夫な鬼のパンツをみんなではこう、と繰り返し呼びかける内容であるが、原曲はイタリア曲「フニクリ フニクラ」で、歌詞の内容も「赤い火を吹くあの山へ、登山電車が来たので誰でも登れるようになった」といったようなものである。

このように、保育の現場では昔ながらの童謡、唱歌が世代を超えて歌い継がれている一方で、新しい曲や、その時代のテレビ、映画等から生まれたヒット曲、また様々な外国曲も取り入れながら、日々、豊かな表現の世界が広がっている

コンコンクシャンのうた

香山美子作詞
湯山 昭作曲

The musical score is written in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of three staves. The first staff contains the melody with lyrics for five variations. The second staff contains a piano accompaniment with chords (F6, Cdim, C7, Cdim, C7, Dm, F) and lyrics for five variations. The third staff contains a bass line with chords (F, Gm, C7) and lyrics for five variations. Dynamics include *mf*, *p*, *mp*, and *piu f*.

Lyrics for the first staff:
 1. り す さ ん が
 2. つ す さ ん が
 3. ぶ う ち ん が
 4. か ぼ さ ん が
 5. ぞ う な ん が

Lyrics for the second staff:
 1. ち い さ い ち い さ い ち い さ い ち い さ い
 2. ほ ー そ る い ほ ー そ る い ほ ー そ る い ほ ー そ る い
 3. ま あ る い ま あ る い ま あ る い ま あ る い
 4. お お き い お お き い お お き い お お き い
 5. な ー が い な ー が い な ー が い な ー が い

Lyrics for the third staff:
 た コン コン コン コン クシャン

図2 「コンコンクシャンのうた」

「うたって、つくって、あそぼう」音楽之友社

ると言えよう。

次に、学生が実習を通して感じた喜び、悩みについて率直に述べている点について触れたいと思う。

アンケート調査の設問の中に、実習を通して良かったこと、楽しかったことを尋ねる項目と、反対に、困ったことを尋ねる項目とがある

良かった点については、子どもたちと触れ合い心から元気になれた気がした、といった趣旨の感想が多数見られた。

また、とにかく子どもたちが可愛くて、実習が面白くて楽しかった、1週間でなくもっと長く行きたかった、保育者になりたいという思いをさらに強くした、などの記述が見られた。

これらは、前回の調査が2年生の6月、11月の実習に関するアンケートであったのに対して、今回は、1年生で初めての、また、1週間という短い期間の実習である点が大きいものと思われる。そして、この時感じた感動が保育者を目指すさらに大きな動機づけとなっているのではないと思われる。

しかし、その反面で自分が実際に担任になった時、上手くやれるかどうかという不安も感じている。

次に、困った点では子どもたちの「がなり声」についての記述が複数見受けられた。

ある園では、子どもたちがほぼ全員「がなり声」で歌っていて、元気な声と「がなり声」は違うのに、どう指導したらよいか困ったという感想があった。

また、ある園では叫びながら歌っている子に対して、他の子が「うるさくて何も聞こえない」と困っていた、とか、「がなり声」で歌詞が聞き取れない、あるいは、「がなり声」の子どもへの指導がうまくできなかった、等の記述が見られた。

このように集団歌唱の場に置いて、子どもたちが慢性的にがなり声で歌っている現象はこれまでも研究者によって数多く指摘されているにもかかわらず、社会的には「元気でいかにも子どもらしい声」として肯定的に受け止められることが多い。

しかしながら、幼少時における慢性的ながな

り声は、未だ柔らかい幼児の声帯を傷める恐れがあり、決して好ましいこととは言えない。さらには幼児が音楽の持つ美しさの本質を感じ取れることを妨げる場合さえ考えられる。これらは「表現」の趣旨に逆行するものと言える。

筆者はこれまでも、このような場合の歌唱指導について拙論「子どもの歌唱表現に関する一考察」の中でも述べてきたが、今回のアンケート調査を通して、学生に対し、さらに、より一層の指導の必要性を強く感じている。

また、「普段、大学で学べないことが学べてとてもよい経験になった」との感想を書いた学生が複数いた。

このように保育実習とは、学生に保育者として、また人間として自覚と成長を促していく貴重な体験、学習の場であると共に、学生を指導する私たち教員にとっても、自らを振り返る大切な機会を提供してくれているとの思いを強く持った。

<引用・参考文献>

- ・大森由美子「幼児の音楽表現活動から見た学生の歌唱指導のあり方—実習生のアンケート調査を通して—」『東海学院大学短期大学部教育実践報告 2010』pp.5-11
- ・大森由美子「子どもの歌唱表現に関する一考察—幼稚園における歌唱指導を通して—」『東海学院大学短期大学部紀要 第37号 2011』pp.41-48
- ・大森由美子「幼児の音楽表現活動に関する一考察—保育実習アンケートを通して—」『東海学院大学短期大学部紀要 第38号 2012』pp.49-55
- ・大畑祥子編著『保育内容 音楽表現』1991 建帛社 東京
- ・金田一春彦・安西愛子編『日本の唱歌 上・中・下』1977 講談社 東京
- ・三瓶政一郎著『日本童謡全集』1974 音楽之友社 東京
- ・幼児表現教育研究会編『うたって、つくって、あそぼう』1989 音楽之友社 東京
- ・『おかあさんといっしょ ピアノ・ソロアルバム』2005 ケイ・エム・ビー 東京
- ・奥田恵子 他『楽しい音楽表現』2009 圭文社 東京

- ・ 小林美実編『こどものうた200』1975 チャイルド本社 東京
- ・ 小林美実編『続 こどものうた200』1996 チャイルド本社 東京
- ・ 南曜子編『心を育む子どもの歌』2005 教育芸術社 東京
- ・ 森田百合子 他『改訂 幼児の音楽教育 表現◆音楽』1990 教育芸術社 東京
- ・ 『アニメーション・ソング大全集』2008 ドレミ楽譜出版社 東京
- ・ 保坂恵美「保育者採用試験を通して見るピアノ指導のあり方」～『東海女子短期大学紀要』第25号 1999
- ・ 東海女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻「保育実習に必要な養成カリキュラムの検討」～『東海女子短期大学紀要』第27号 2001
- ・ 『幼稚園 教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）
- ・ 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館 2008）